

### 国連インターナショナルスクールの子どもたち

インド、アフリカ、ポーランド、フィリピン、コスタリカ、中国、日本…国連職員の子どもたちが多く通学するこの学校は、世界各国からやってきた子どもたちの、クロスカルチャーの場だ。彼らの多くは、人見知りするようなシャイな感じを見せて、芯はしっかりという子どもたちだった。



### ハーレム地区の小学校の子どもたち

正直な話、ちょっと恐怖心を持ちつつハーレム地区の学校に行った。しかし、恐怖よりも、子どもたちのエネルギーに圧倒された。みんな、眼を輝かせて自分の将来をしゃべる。夢がある。気迫がある。素晴らしい子どもたちだった。彼らの写真1枚1枚からも、やはり生きる勢いを感じさせられた。



### ソーホー地区の学童クラブの子どもたち

アメリカでは、子どもたちが放課後の時間を過ごすための場とプログラムが、かなり整っている。この学童クラブは、特にアートのプログラムに優れているとの評判だった。彼らの親の職業を聞くと、学者やアーティスト、クリエイターが多い。そんな家庭の様子うかがえる写真だった。



# ファインダーをとおした 子どもたちの 心象風景

ニューヨークで

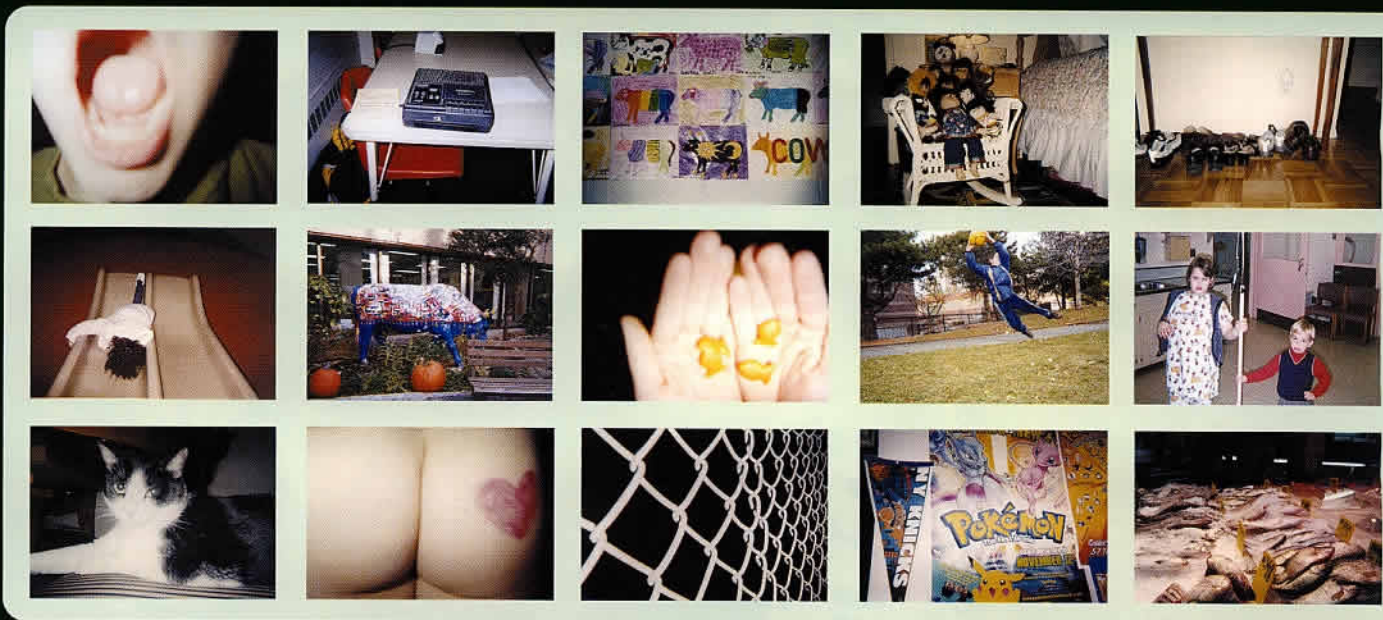
10歳の子どもたちに、

好きなものを撮ってもらった。

将来は、フォトグラファー、  
プロバスケットボール選手、弁護士、  
デザイナー、ジャーナリスト、医者、  
彼らの話はポジティブで、  
未来志向で、力強かった。

小さな写真家たちの  
汚れない眼がとらえた

写真展。



この写真調査プロジェクトは、昨年1月にニューヨーク在住のキュレーター魚住早智子さんをプロジェクト・オーガナイザーとして、HRIが実施したものです。このプロジェクトで子どもたちが撮った写真をもとに、2002年7月にドイツの美術館で展覧会“Untaied Eyes”が開催されます。また、その後ヨーロッパ各地にて巡回展が計画されています。